

第78回定期地方大会開催

国労ちば

国鉄労働組合
千葉地方本部
発責 加藤 晃一
編集 高橋 弘幸
【電話】
JR 2930 FAX 2934
NTT 043(238)5963

第78回定期地方大会特集号

9月7日、台風一過で残暑が再び猛威を振るう中、国労千葉地方本部は地方本部会議室において、第78回定期地方大会を開催した。

2023年度の経過報告と決算が承認され、2024年度の新たな運動方針と予算、そして新役員体制が確立した。

大会は松田副委員長のあいさつで開会、嶋田資格審査委員長の報告を受けて松田副委員長が大会の成立を宣言した。

大会議長には運輸区統合分会の竜崎代議員が就任し「会社の進める組織再編で乗務員は駅と同じ統括センターに、乗務の合間に駅の仕事もする。逼迫していた要員不足は解消したが支社業務との兼務者が数ヶ月に一回ほど乗務し、効率化で安全



が脅かされている」とあいさつした。

加藤地本委員長があいさつし、続いて東日本本部を代表して和賀執行委員が「柔軟な働き方と称して社員同士の競い合いが助長されている。「安全」やサーピスを蔑ろにする変革に警鐘を鳴らさなければならぬ。職場には不安や不満が渦巻き、そのような声を取り上げ行動に結び付けることが重要」とあいさつ。

東日本本部定期大会の機関紙コンクールで最優秀賞を受賞した運輸区統合分会の表彰と地本機関紙コンクールの表彰も行われた。規約の一部改正、2023年度の決算と経過報告が承認され2024年度の予算と運動方針が代議員の討論で確立した。

新役員体制も確立し最後に加藤地本委員長の音頭で団結カンパローを三唱し閉会した。



加藤委員長

ここ数年「コロナ禍」という状況の中で、大きな大衆行動や宣伝行動を行うことができなかった。また各機関会議も短時間開催とせざるを得ない現状の中で、多くの時間をかけて分会の皆さんの理解を深めながら「分会の再編成」も無事完了することができた。しかしながら組合員の年齢構成から言って、組織のあり方を全体で引き続き議論していかなければならないと考えている。組織拡大も思うように進まない現

国鉄採用者が退職を迎える年齢となった。長い間差別を受けながら国労の旗を守られたことに感謝を申しあげる。▼「社員代表選挙」が取り組まれたが、国労組合員の数以上の得票を勝ち取り国労に期待をもっている表れだと思う。▼重大な輸送障害が多発している。安全・安定輸送が崩壊していると言っても過言ではない。東日本本部・千葉地本としても会社に対し改善を求めてきた。千葉支社の全ての駅が統括センター・営業統括センター化され乗務員を業務に指定するという事象も発生しているが労基署からは「ふさわしくない」との見解が出され、千葉支社に対し改善を求めてきた。現場の声・

書記長集約



北嶋書記長

実態を集める中からの検証が必要。ダイヤ改正の度に利便性が損なわれ、内房線の特急の廃止、千葉〜館山の直通も廃止されてきた。木更津〜上総一ノ宮間にワンマン運転が導入された。変革2027発表以降は会社の都合・施策をゴリ押しし、公共性・利便性をも否定するものとなっている。▼昨年JR千葉支社の要請を受けて「久留里線沿線地域交通検討会議」が設置された。廃線ありきではないとしているが、引き続き関係自治体や利用者の声を集める中から、鉄路を守るを基本に運動を展開していく。▼24春闘は大手では5%を超える回答となっているが、物価の高騰に追いつかず労働組合として当たり前の要求と行動で勝ち取らなければならない。

安心して働き続けられる職場と平和と民主主義を守る、職場・地域に根差した運動を全体で意思統一して集約としたい。

の廃線やバス転換などの議論が始まっている。「公共」を一番に重んじなければならない鉄道事業者は、他に選択肢のない高齢者や学生たちの通勤通学の手段をどう解決しようとしているのか。今あらためて思うのは、国鉄の民営化は既に破綻しているということだ。

JR東日本会社は利用者サーピスの低下はやむを得ないと言わんばかりの合理化施策を強硬している。安全問題では、電

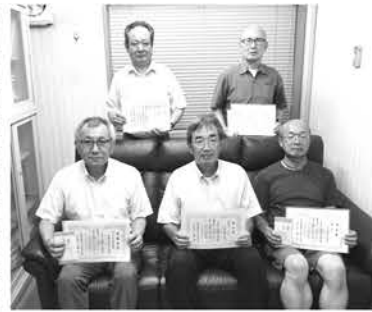
柱との衝突事故やグループ会社社員の感電死亡事故発生など、安全第一を経営方針の柱とする鉄道会社とは思えない異常事態だ。

東日本会社における「職場社員代表選挙」の取り組みを通して労働組合の必要性を訴えていくことも重要だ。定期的に対策会議等を開催し、意見や要望・要求を集約しながら多くのグループ会社の諸課題も含め改善を求めていくこととする。

機関紙コンクール表彰

寸評

分会再編により発行機関紙が減少し、今年は1職協4分会が対象に。発行紙が減少してい



る中で運輸区統合分会は班と分会の2部発行した。担い手不足は共通の問題だが、他業種や他職場のことを知り得ない若い社員も多く、情報発信は重要なことであり継続した機関紙発行に敬意と感謝を表したい。

表彰

【最優秀賞】

◆運輸区とうごう

（運輸区統合分会）

◆SOGA班新聞

（運輸区統合分会）

蘇我班

◆【努力賞】

◆運協ニュース

（運輸協議会）

◆新保ニュース

（千葉設備分会）

◆闘灯

（木更津分会）

◆きずな

（津田沼分会）

討論



安田代議員
千葉統合分会

成田線我孫子口は遠隔化により布佐駅を拠点として湖北駅以外はほとんど無人状態。住民や利用者から小林駅の有人化を求める声が相次ぐ。▼駅の無人化により車イス対応に1時間以上かかるなど不便さが増している。▼泊まり勤務箇所と日勤箇所不公平感が増している。変革2027は社員にとって将来展



越川代議員
千葉機関区分会

望を失い魅力のない会社になっている。貨物会社では65歳以上の再雇用がされず退職する仲間もいたが今年の8月、再雇用の募集があった。以前から要員補充の交渉をしてきたが具体的な回答は無い。▼隅田川機関区の乗務員が電車便乗し、蘇我から出区するという非効率的な運用を行っている。▼今後も貨物協議会と協議しながら安心して働くことができる職場づくりに取り組んでいきたい。



長田代議員
木更津分会

一人勤務駅の見守りカメラは即応性が無く会社は「これで万全・完璧」と胸を張るが現場社員の命は守れない。休憩時間でも支店当直から旅客対応を求められる。二人勤務にするべきだ。▼乗務ユニットは要員不足のため休日出勤が多く発生している。動物との衝突事故も多く、撤去出来なかった際には指令から搭載しているノコギリで「首を切れ」と指示されたこともある。



稲崎代議員
運輸区統合分会

乗務員職場は統括センターに所属し、乗務員が駅の仕事をしている。当初会社は安全運行の観点から、乗務の技量維持を考えて月に最低でも1、2回程度は乗務させるとしていたが数ヶ月ぶりの乗務に、不安を抱いている。効率化だけを優先した変革2027により、鉄道の安全が保たれるのか危惧は尽きない。



海後代議員
千葉設備分会

分会活動は色々な職種と地域が広いので集まりにくく思うような活動ができていないが何とかしていきたい。▼エルダー出向となり前職場の保技セの問題が見えづらくなった。線閉工事は競合の打ち合わせのみで多くの仕事をやっている。これでは安全な作業が出来るのか不安になる。職場内が暗く、話もできないため問題点が見えない。そのうち事故が起きないか心配になる。



十文字代議員
幕張電車区分会

社員代表選挙が行われ対会社側の獲得票は増えている。日頃の不満が数字として表れたのではないかと思う。若い社員たちには職場に風呂がある・炊飯器があるのは当たり前と思ってるかもしれないが、それは会社が与えたものではなく我々労働者が勝ち取ったものだ。▼組織拡大を実現し、国労を守るためにも労働組合の必要性を訴えていくことが第一歩と感ずる。



松本代議員
津田沼分会

津田沼管内は慢性的な要員不足だが、分会組合員2名が「要員は足りている」との理由でパートでの採用にならなかったのは納得できない。▼車イスの部屋は食事や休憩のスペースに個室が備えられている。風呂は無くシャワーのみ。CTSも含めた出向職場は一概に休憩設備に問題がある。

2024年度新執行体制

執行委員長	加藤晃一	62才
執行副委員長	北嶋利則	61才
執行委員	嶋田福実	61才
〃	佐川正則	61才
〃	北村智之	43才
青年部長	飯田秀樹	28才
会計監査	島崎良男	63才
〃	太田久市	60才

来賓メッセージ

- ▼ 社会民主党千葉県連合
- ▼ 新社会党千葉県本部
- ▼ 日本共産党千葉県委員会
- ▼ もとよし栄一いすみ市市議会議員
- ▼ 池沢みちよ船橋市市議会議員
- ▼ 全国労働組合連絡協議会
- ▼ 千葉県労働者福祉協議会
- ▼ 運輸労連千葉県連合会
- ▼ 千葉中央法律事務所
- ▼ 中央労働金庫千葉支店
- ▼ 東京労働安全衛生センター
- ▼ 交通労連関東地方総支部
- ▼ 千葉県交通運輸労働組合
- ▼ 国鉄闘争の経験と教訓を活かす千葉県共闘会議
- ▼ 千葉臨海鉄道労働組合
- ▼ 全国一般東京東部労働組合
- ▼ 葛飾地区労働組合協議会
- ▼ 江戸川地区労働組合センター
- ▼ 国鉄千葉動力車労働組合
- ▼ 全国交運共済生協
- ▼ 鉄道退職者の会
- ▼ 千葉地方連合会
- ▼ 国鉄労働組合盛岡地方本部
- ▼ 国鉄労働組合秋田地方本部
- ▼ 国鉄労働組合新潟地方本部
- ▼ 国鉄労働組合長野地方本部
- ▼ 国鉄労働組合高崎地方本部
- ▼ 国鉄労働組合水戸地方本部
- ▼ 国鉄労働組合東京地方本部
- ▼ 国鉄労働組合岡山地方本部

【敬称省略・順不同】